「遊び」の中の「学び」

富里市立富里幼稚園長　秋葉（あきば）　利恵（りえ）

1　はじめに

本園は富里市の中心地に位置している。商店街であり、交通量の多い地域で、園周辺はアパートや住宅地に囲まれている。全園児数は71名であり、４歳児１クラス、５歳児２クラスの２年保育で、「遊び」を通していろいろなことを総合的に「学」んでいる。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせ、接続期のカリキュラムにおいて、どのような子供を育てていくか、教師がねらいをもって援助している。

2　事例①「焼肉やさんごっこ」

近所に焼肉やさんがオープンしたことが話題となって始まった遊びである。ここでは、教師が子供の興味・関心のある遊びを援助した。どんなメニューがあるかを相談し、肉や野菜を作っていく。遊びに必要なものをどのように作っていくか、どのような材料を使うかなど考えたり工夫したりし、また、開店準備として、看板やメニュー表、店員さんのエプロンなど必要なものを考えて作り、レジや食べるところなどの環境づくりもした。お店がオープンすると、案内する人、注文をとる人、料理を運ぶ人、片付ける人、レジ係などの役割を決めた。そして「何名様ですか？」など遊びに必要なやりとりをして楽しんだ。その後、「もっとお客さんに来てもらいたい！」という思いから年少児を招待することにした。メニュー表が読めない子がいると「○○がおすすめです。」「○○はいかがですか？」と声をかけ、優しく接していた。年少児は、年長児の遊びに参加することにより、

刺激を受けて憧れの気持ちをもつ。ここでは、「10の姿」の協同性、自立心、言葉による伝え合い、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、社会生活との関わりが育つことが分かった。

3　事例②「ボールの的入れ」

新聞紙で作ったボールの的入れをして遊んでいるときに、投げたボールを拾い集めるのが大変だと感じ、いい方法がないかと考えた。牛乳パックをつなげてボールの通る道を作ってみようということになり、実際にボールを入れてみると、傾斜させるとうまく転がることが分かった。しばらくそれを手で支えていたが、疲れてしまうので、壁に固定させることにした。回収かごをどの位置に置いたらボールが入るか何度も試し、このボールの回収システムができた。ここでは、「10の姿」の思考力の芽生え、協同性、自立心が育つことが分かった。

4　おわりに

こうして、「遊びに夢中になる」「遊び込む経験」が意欲や達成感、充実感、自信へとつながり、「学びに向かう力」になる。その中で教師が明確なねらいをもち、環境をつくっていくことが大切になる。幼児の主体的な遊びには、たくさんの学びの芽生えがあり、小学校の学習の基礎となる。これらの経験を、小学校のスタートカリキュラムにつなげていけるようにしていきたい。